

# 日本共産党 大津市会報告

## 2008年5月号

●発行 日本共産党大津市会議員団  
大津市西ノ庄5番16-1 TEL.525-1500



▲後期高齢者医療の廃止を訴える

塚本市議は市長選挙を通じて市民から寄せられた「年金が引かれて少なくなり困っている」「庁舎や駅名変更」に多額の税金を使うのではなく、

塚本市議は市長選挙を通じて市民から寄せられた「年金が引かれて少なくなり困っている」「庁舎や駅名変更」に多額の税金を使うのではなく、

塚本市議は市長選挙を通じて市民から寄せられた「年金が引かれて少なくなり困っている」「庁舎や駅名変更」に多額の税金を使うのではなく、

### 子育てもくらしもますます深刻、切実な市民の願いに応える市政を

市長選挙後初の2月定例会で、二期目の所信表明をおこなった目片市長に対して、塚本正弘市議が代表質問に立ち、切実な市民の願いや当面する市政の重要課題について市長の基本姿勢をたずねました。健康上の理由で市長欠席の議会となりましたが、庁舎建設基金の積み増しや大企業の工場建設への補助金などの予算を改めて、安心してくらし続けられる大津市へ、福祉や医療の充実を求めました。

子育て支援を「子どもの医療費無料化や幼稚園、図書館の充実を」などの声を紹介し、新年度予算で子育て支援など一定の前進もあるが、これで

### 県下二番目に高い国保料の引き下げ、後期高齢者医療の中止・撤回を求めよ

〇八年度予算では、障害者施設の建設や保育園建設などの前進もあるものの、庁舎建設のための二億円の積立て

塚本市議は、高すぎる国保料が払えないために、保険証をもたず、手遅れで死亡した事例が大津市で発生していることを告発。こんな事件を起こさないためにも、国保料の引き下げをおこなうよう求めました。

また、四月から実施の後期高齢者医療制度は、負担を増

### これでいいのか？自民・公明・民主等

後期高齢者医療の中止を求める請願は否決  
共産党提案の議員報酬カットも否決  
議長・市長のグリーン車出張は可決!?

全国で怒りが広がっている後期高齢者医療制度実施を目前にした2月議会では、この制度の中止・見直しを求める請願が出されましたが、日本共産党以外のすべての会派が反対し否決。ところが、市三役、県議会でもおこなっている議員報酬の一部カットは否決、議長や市長のグリーン車出張は可決（いずれも自民・民主・公明系多数）と市民に痛みを押しつけながら、自分たちはお手盛り……これでは市民の代表が聞いてあきれます。

件名	共産党	自民系 大志会	自民系 結の会	公明党	民主系 市民ネット	清政会	対話・ 袖の会
後期高齢者医療制度の4月実施中止の意見書提出を求める請願	○	×	×	×	×	×	×
08年度大津市議会議員の報酬を5%カットする議案	○	×	×	×	×	○	○
議長・副議長、市長・副市長等の出張にグリーン車を使う議案	×	○	○	○	○	×	×

※請願・議案などは内容をわかりやすくするために表現を変えています。

代表質問に対する市当局の答弁は、切実な市民の願いに応えるものではありませんでしたが、いま、新幹線新駅の中止や道路特定財源の見直しなどのように世論と運動が政



▲鈴鹿市のコミュニティバスを見学

### 県都にふさわしいまちへ、中学校給食、巡回バスなどの実現を

大津市は来年政令指定都市に次ぐ権限を持つ中核市へ移行する予定ですが、住民サービスが充実してこそ県都にふさわしい市政といえるのではないのでしょうか。塚本市議は全国八割で実施している中学校給食、県下一〇市で運行している巡回バスなどを大津市でもぜひ実現するべきと求めました。

# 福祉優先・市民生活を支える新年度予算へ 市長選挙で示された市民の願い実現を

◆市議団ホームページをご覧ください



<http://www.otsu-jcp.net/>

皆様のご要望・ご意見を寄せください。



岸本 のり子  
594-6091



つかもと 正弘  
525-3230



石黒 かづ子  
579-2261



八木 おさむ  
534-5023



杉浦 とも子  
525-9247



佐々木 しょういち  
546-6653

# 日本共産党大津市会議員団

# 暮らしを支える 大津市政の実現へ積極的提案!

大津市議会2月定例会  
一般質問・質議

## ●八木修市議

### 中核市になっても市民の暮らし第一に

大津市は2009年4月に中核市に移行します。中核市では、現在滋賀県がおこなっている保健所・都市計画などの1,895項目の事務が大津市に委譲されることとなります。一方、財源は交付税に頼るだけでなく、財源(税源)委譲によって安定的な財源を確保することや、必要な人員・人材を確保するよう質しました。

また児童虐待防止法は『国民は虐待と「思われる」段階でも行政に相談・通告しなければならない』とし、相談・通告先には児童相談所とともに市町村も加わりました。

大津市では子ども家庭課、子ども家庭相談室がその受け皿となって、県の児童相談所と連携し事案の処理にあたっていますが、近い将来児童相談所の委譲を受けて、市民の身近なところで子育ての悩み等を解決し、子育て安心の大津市にしていくべきと求めました。



▲市が移管を受ける大津保健所

## ●石黒かづ子市議

### 市民みんなが使いやすい公民館へ

大津市は2009年の4月までに、34カ所ある公民館の利用規定を見直す方向です。公平公正な公民館の貸し館のあり方を検討するため、昨年7月から庁内検討委員会を設け、協議を行なっています。これに対し「減免制度が受けられなくなるのでは」「使用料が値上がりするのは」など住民のあいだに不安が広がっています。

石黒かづ子市議は、公民館は社会教育法に基づいて設置された社会教育施設であり、本来無料にすべきであること、全国的に「受益者負担」の考え方で、使用料徴収の動きが進んでいるが、大津市はこのような動きに追随すべきではないと求めました。



▲新築された藤尾市民センター

市は、公民館が地域住民の生涯学習や人間交流の拠点としての役割を果たしており、使用料については、その団体が果たしている地域社会での役割や、実績を考慮しつつ、条例に基づいて減免可否かの判断をしていきたいと答弁しました。

## ●岸本のり子市議

### 「食」と「農業」に安心を求めて

食料自給率の低下で、国民の77%が「将来の食料供給に不安がある」と答えています。岸本のり子市議は政府が進めてきた米の減反政策と農産物の輸入自由化が原因であると指摘し、大津の農業人口が20年で3分の1に減少したことや、旧志賀町の自校方式給食廃止で、生産者の労働意欲まで失われている事例をあげ、自給率がわずか8%しかない本市の農業支援と、国に価格保障を求めることを提案しました。



▲農業に従事する婦人の話しを聞く

市は人口急増と多品目少量生産が主流であり、朝市やグリーンファームの補助をしていると答弁。しかし、世界的な異常気象、バイオ燃料の高騰などで次々に輸出規制が行われており、お金さえ出せば輸入できる時代ではなくなります。「国民のいのちを支える土台」として、農業者が安心して励める農政への早急な転換が必要です。

## ●佐々木しょういち市議

### 経費削減最優先の外部委託・指定管理者への移行は、市民に対する責任放棄

市民の健康と福祉・生活の向上を目的とする市政において、「財政難」を理由とした「安上がりな」外部委託・指定管理者制度が導入されています。今、国全体に派遣をはじめとする低賃金・不安定な非正規雇用が広がり、格差と貧困が問題になっている中、自治体の行き過ぎた低価格



▲今年から指定管理となった大津市民会館

追求と買い叩きは、働く人に劣悪な労働条件を押し付け、ワーキングプアをつくることに手を貸すこととなります。さらに市民に対するサービスの質の低下を招き、他都市では事故も発生しています。

佐々木市議は、市の仕事に携わる人たちに民間の派遣よりもさらに低い賃金を押し付けたり、実情を無視した職員減らしをすることは、市民に対する責任の放棄につながりかねないとして、市の姿勢を質しました。

## ●杉浦とも子市議

### 地域医療を守り、市民の期待に応える医療水準で役割果たせる市民病院に

国の医療費総額抑制政策による医療崩壊が大きな社会問題となっている中、国は市民病院を持つ大津市にも、「公立病院改革ガイドライン」の策定を押し付けてきています。このねらいは効率性の追求最優先の公立病院つぶしです。そこには国民の願いである医師・看護師不足の解消など、国民の命と健康を守るという地域医療体制の充実・確保の視点はありません。

自治体病院として市民病院は、高度医療や不採算部門といわれる救急医療・小児医療・産科医療など地域医療の中核を担い、市民のいのちと健康を守る役割を果たすためになくてはならない存在となっています。

杉浦市議は、国の押し付けを許さず、大津市の実情に応じた地域医療を守る姿勢を貫き、市民の期待に応え得る医療水準を維持することを求めました。



▲公的施設として充実が求められる大津市民病院

## 市民の世論と運動が 政治を動かして切実な要求を実現へ!!

- ◎長年にわたる障害者、保護者や関係者の運動がようやく実を結び、北部障害者通所施設の建設へ着手
- ◎PTAや地域の方々からの強い要望だった学校警備員2小学校区に1名へ復活 (石黒市議が07年9月定例会で質問)
- ◎女性団体が毎年要望されていた妊婦健診料の補助が2回から8回へ拡充
- ◎2,500円補助券×8枚で自己負担の軽減に(杉浦市議が07年6月定例会で質問)
- ◎毎年、保護者や指導員から強く要望されている大規模児童クラブの分割が08年度瀬田児童クラブから実施へ(共産党議員団も調査・政策要望を行なってきたものです)



※2008年6月市議会定例会から、市民に開かれた議会へ―議会開催の様子がインターネットで配信されます!